

光寿
特集

お線香あれこれ

線香の功德

線香は、仏さまへの大事な供養物です。その香りは、仏さまにとどくだけでなく、線香をたく本人はもとより、周囲のだれ彼の区別なくゆきわたる徳をもっています。それは、仏さまの大慈悲心と同じように四方に無限に広がり、私たちに深いよろこびと信心ごころを起させます。

ですから、仏事や葬儀において焼香を供えるのは、お仏前を美しく清らかに飾りさせていたただくだけでなく、敬度(けいど)（けい）な心をささげる大切な儀式でもありま



線香の歴史

線香の歴史は、現在でも中国や台湾で使われている竹を芯とした竹芯香に始まるとされています。

日本へは、十六世紀末の天正年間に現在のような線香の製法が伝わりました。

線香の種類

線香は、主な原料によって杉線香と匂い線香の二種類があります。

◇杉線香 杉の葉の粉末を原料に製造されます。特有の香りのする煙の多い線香で、主にお墓用線香として使われます。

匂い線香

楠(たぶ)の木の樹皮の粉末を主原料に、各種の香木や香料を加えて製造されます。現在広く家庭や寺院で使われている線香です。長さの種類はいろいろあり、1.5センチの短寸、2.5センチの中寸、3.5センチの長寸、3.5センチの大薫香、4.5センチの中天香、5.5センチの大天香などがあります。

線香の供え方



まずローソクに火を点し、次に線香をローソクの火で点火し香炉に立てます。線香の火は、口で吹き消すのではなく、手であおいで消すようにします。人間の口

は、とかく悪業を積みやすく、けがれやすいものなので、仏に供えた火を消すには向かないからです。ローソクの火を消す場合も同じです。お供える線香の本数は、一般的には一〜二本ですが各宗派で異なります。

浄土宗、禅宗、日蓮宗は一本で、天台宗と真言宗は三本です。香炉に立てるときは、まとめないで一本ずつたてます。

浄土真宗では線香を立てず適当な長さに折って火をつけ香炉に横に寝かせます。

蚊帳吊りて昭和の匂う部屋となり

季節の詩

林 香月子

お香の種類

線香以外に仏事で使われるお香に次のようなものがあります。

「焼香」香木などの天然香料を細かく刻んで調合したお香です。使用する香木や香料の数によって、五種香、十種香などと呼ばれています。

「抹香」非常に細かい粉末のお香で、長時間くゆらせておく寺院の常香盤や密教用具の火舎香炉などに使われます。

「塗香」最も粒子の細かいお香で、片栗粉のようになめらかです。俗に清め香ともいわれ、主に密教寺院などで本尊に供えたり、少量を手や身体に塗って心身を清めるために使われます。



市老連女性リーダー研修会に参加しました



今年度の市老連女性リーダー研修会が七月三日西部体育館で開かれ、南砺市浄教寺住職高瀬正師の「インド巡礼

お釈迦様の聖地を訪ねて」と題する講話や県老連指導員野村秀子さん指導による軽体

操などがありました。高瀬師はインドは今でも身分制度が厳しく貧富の格差も大きいこと、他人に物を施すことに喜びを感じ、施しを受けることを恥とは思わない風土であることなど巡礼の旅の感想と共に、お釈迦様の教えである「煩惱欲望を滅しとらわれないで生きる」ことの大切さを話されました。本会より私と齊藤美智子さんが参加しました。

(光寿会副会長 林 正子 記)